▲ ファミリーで参加の卒業生

▲ あいさつする甘竹会長

▲ 来賓のあいさつをする日高理事長・学長（左）と坂田石巻専修大学長

校友とご家族、関係者ら250人参加

「2010年度 校友会定時総会」を開催

▲ 原一平さんの漫談

「2010年度校友会定時総会」が6月26日、東京・九段の「ホテルグランドパレス」で校友とその家族、大学関係者ら約250人が参集して開催された。

甘竹秀雄会長が「専修大学では創立130周年記念映画『学校をつくろう』を製作中です。8月末ごろに完成予定ですが、公開の暁には校友会と育友会が一体となって、全国各地の方々にPRしていきたい。専修大学がますます発展するように校友会、育友会は車の両輪のように大学運営に協力していきたい」と開会のあいさつを述べた。

司会の日高治子さん（フリーアナウンサー・平11経営）

来賓の日高義博専修大学理事長・学長は「映画につきましては、各方面からご支援・ご協力を賜り感謝しております。大学を取り巻く環境が厳しくなっているいま、私立大学で重要なことは個性、特色を明確に打ち出していくことです。これからも校友会、育友会の皆さまには連携して大学にご支援をお願いしたい」とあいさつ。同じく来賓の坂田隆石巻専修大学長は、「東北の地で地域社会の持続的な発展を支える大学として、人材を育成したい」とあいさつした。

議事では、水﨑保男総務部長（昭44法）から、先に行われた代議員会の諸報告が行われた。

懇親会は、菅沼堅吾育友会長の発声で乾杯し、体育会優秀選手の紹介ののち、ダンスチームMISAKIの華麗なパフォーマンス、ラテン・ジャズボーカリストのやまもときょうこさん（平3商）の歌、原一平さん（昭36商経）の漫談などのアトラクションで会場は和やかな雰囲気となった。福引抽選会のあと、全学応援団のリードで校歌を斉唱して散会した。

▲ やまもときょうこさん

◀ 福引抽選会で校友会長賞を射止めたお子さん

▲ ダンスチームのパフォーマンス

▲ 体育会優秀選手を紹介

▲ 会場を沸かせた全学応援団チアリーダー部

校友短信

第22回参議院選挙結果（10年7月11日投開票）

【選挙区】

松村　祥史氏（まつむら・よしふみ＝昭62経営・46歳）熊本県、自民党、当選2回。

松村　祥史氏

【比例代表】

小熊　慎司氏（おぐま・しんじ＝平4法・42歳）みんなの党、初当選。

※写真提供：毎日新聞社

小熊　慎司氏

専修大学大学院商学研究科・東京信用保証協会

第6回共同公開講座「中小企業の価値創造」

▽日時＝7月31日（土）13時～▽場所＝神田キャンパス731教室▽内容＝高橋義仁商学部准教授「強い中小企業の分析～競争力の決め手は何か」ほか、パネルディスカッション▽田本学学生は大学院事務課へ、一般の方は東京信用保証協会へ。

森下健三ゼミOB会

6月12日、東京オペラシティ東天紅で森下健三ゼミのOB会を開催した。1期生から24期生のうち、福島・静岡・千葉・埼玉・東京など各地から14人が参加した。

先生の講義を久しぶりに受け、年代を超えて、学生時代の思い出を懐かしむ会となった。来年は先生が80歳を迎えられるということで、もっと大勢のOBを集め盛り上がろうと話がまとまった。（報告：森下ゼミ17期生・檀原　康伯）

小林伸一郎氏が写真集を刊行

小林伸一郎氏（昭55経済）が全国の不思議な神様を撮影した写真集「神様OH MY GOD！」を刊行した。（日本カメラ社、3150円税込）

アドニス52号刊行

校友会誌「アドニス52号」が7月に発行されます。主な内容は、特集「仕事基礎力パートⅡ」第2回、編集力「われら専修人」で金紋秋田酒造㈱代表取締役社長の佐々木孝さんの紹介などとなっています。

校友会からのお知らせ

〈第15回九州連合総会〉

▽8月28日（土）14時30分開会▽別府市「ホテル別府パストラル」圃事務局長・郷之原茂樹氏☎090（8393）4596

〈大分県支部設立60周年記念大会〉

▽8月28日（土）16時開会▽別府市「ホテル別府パストラル」圃事務局長・高山浩一郎氏☎097（592）3730

専大校友を訪ねて

公設事務所「あまみ法律事務所」初代所長

正込健一朗さん（平19法科大学院）

「奄美で一番の法律事務所にしたい。知名度、身近さ、顧客満足度、問題解決力のすべての面においてです」

今年4月、奄美市2カ所目の公設事務所「あまみ法律事務所」の初代所長に就任した。

2005年、同市に新設された最初の公設事務所の初代所長をめぐって、多重債務処理を放置していたなどと損害賠償訴訟が起きている。

兵庫県尼崎市で生まれ、小3から18歳まで鹿児島市で育った。弁護士初任地も同市。少年時代から県の一地域である奄美には何度も訪れた。

2カ所目開設にあたり「鹿児島の人間が解決を図る」ことが使命と名乗りを上げた。地元の弁護士過疎解消とともに島の人々の信頼回復を担う。

―異分野から司法の道に　奄美へIターン―

哲学、現代思想を学び、筑波大大学院博士課程まで進んだが、法科大学院スタートの04年、「人とかかわる仕事をしたい」と異分野である司法を志す。

ところが面接時に「哲学をやってきた人間には無理だ」と、受験にことごとく失敗。道を開いてくれたのが「社会生活上の医師」を掲げる専修大学の法科大学院だった。平井宜雄前院長（民法）をはじめとする教授陣によるきめ細かな少人数教育、さまざまな分野の人と机を並べ刺激を受けながら無我夢中で学び、「『法』は人々の生活の身近な存在である」と気づいた。

07年、未修1期生として総代で卒業。その年の新司法試験に合格。〝故郷〟鹿児島市に就職先を得たのも、専大のつながりだった。

本学卒の弁護士・永山一秀所長（昭48法）の永山法律事務所で1年3カ月間働き「セカンドオピニオン」も勧める依頼者本位の弁護士活動を学んだ。

奄美の宝は「海の美しさと人々の温かさ」。ブルーを基調にした明るいイメージの所内は、豊かな島への思いが満ちている。